

令和6年度 磐田市立豊岡北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者 評価委員から
かんがえる花	主体的に学ぶ子	課題解決に向けて主体的に取り組む。 【85%】	B	○校内研修の重点を「子供と共に課題を作るための工夫」として、子供たちが主体的に課題に取り組めるように意識して授業を展開してきた。導入の工夫や既習事項を生かすことで、課題づくりにつながられてきたが、その課題解決に向けて児童が主体的に調べたり学んだり、学びを次へと生かしたりするためには、教師自身が児童の主体的な姿を具体的にイメージ、共有していくことがまず大切になる。 ※子供たちの「知りたい」「わかりたい」「できるようになりたい」という気持ちを引き出し、継続させ、自分の学びの評価へとつながられるよう、教師の支援の仕方や授業展開、学習活動の工夫を継続して行っていく必要がある。	○GIGA スクールが始まって、そのよさを感じながらも、目を見て話を聴いているか、教師の心が伝わっているかが心配になっている。
	豊かに対話し 学びを深める子	自分の考えと比べながら聴き、 自分の考えをよりよくする。【80%】	B	○学府で共通して取り組んでいる対話の技や話し方・聴き方ピラミッドを活用しながら、話す聴く機会を多く設けることで、話すこと聴くことに慣れ、自分の意見が言えるようになってきた。しかし、意見の伝え合いで終わることや、自分の考えをもてず友達の考えを待つてしまう児童もいる。 ※児童が話し合いに必要感をもてるように、授業の中のどこで、どのように場を設定するかを大事にしていく。	
なかよしの花	友達との関わりを通して、自分や友達のよさに気づき、伝える子	授業や活動(縦割り活動、学校行事、委員会など)で、友達や自分のよさを見つけたり、伝えたりする。【87%】	B	○全校で取り組んでいる北っこの木(いいところ見つけの木)を書いたり、紹介したり、学級でいいところ見つけをしたりする輪は、広がりつつある。 ※教員も積極的いいところを見つけ、認め、ほめることで、全員が自他のよさに気づき、よさの観点を高め、自主的な活動へとつなげていく。	○心のずれ、教員や大人と子供の心のずれが家庭や学校でのあいさつなどに影響しているのではないかと感じる。
	気持ちが伝わるあいさつや 相手を思う言葉遣いができる子	気持ちが伝わるあいさつができる。 【94%】 相手を思う言葉遣いができる。 【85%】	B	○あいさつ・言葉遣いともに、評価はあまり高まらず、特に教員からの評価が低い。「気持ちが伝わるあいさつ」とはどんなあいさつかを共通認識する必要性を感じる。言葉遣いについては、一部の児童が、日常の指導だけではなかなか改善しない。 ※年度初めや学期初めに、あいさつや言葉遣いを重点目標として設定し、児童とどんなあいさつや言葉遣いがよいか話し合うことで、共通認識の場も設ける。	
きたえる花	進んで運動に取り組む たくましい子	積極的に運動や遊びに取り組むことができる。【87%】	A	○体力アップコンテストへの参加や体力アップタイムを新設したことにより、積極的に体を動かす姿につながっているが、目的をもって運動している児童は少ない。 ※時期ごとに重点運動を決め、体力アップタイムを設定し、目標カードを作成することで、目標をもって運動に取り組めるようにしていく。	○学校では、外遊びができていますが、家庭ではスマホやゲームなどの影響が大きい。
	何事もプラス思考で捉えるしなやかな子	「今日のハッピー」を見つけることができる。【85%】	B	○帰りの会や本読みカードの活用、保健からのアプローチを試み、「今日のハッピー」に取り組んできたが、教師の求めている姿にはなっていない。 ※帰りの会で自他の頑張りを認め合う時間を設け、自己肯定感を高める活動にしていく。苦手なことにチャレンジしていくことを称揚し、それを振り返る場を設定する。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校や子供たちを好意的に温かく見守りながら、地域の方から見た学校や子供たちの様子などについて、御意見をいただくことができた。児童を取り巻く環境が変化している中で、まずは子供たちの心をしっかり育てていくことを大事にしてほしいという御示唆をいただいた。来年度の学校経営のポイントとして掲げている「ウェルビーイングの深化」や「非認知能力の育成」を言葉だけを並べたということにならないよう、授業、様々な教育活動、学校生活全体、児童の生活全般を通して、学校、家庭・地域が連携して育てていけるようにする。